

都市フォーラム32号

東北都市学会通信（通巻32号）

2018年9月30日

<http://www.senkyo.co.jp/tau/index.html>

主なトピック

- ・東北都市学会 2018 年度大会のお知らせ
- ・石巻支部会の活動
- ・2017 年度会員会を開催
- ・『研究年報』第 19 号論文の募集
- ・会員の状況
- ・2018 年度会費納入のお願い
- ・東北都市学会役員
- ・事務局から

東北都市学会 2018 年度大会のお知らせ

2017 年度東北都市学会大会は、2018 年 11 月 10 日(土)～11 日(日)に、山形県の山形県郷土館「文翔館」で開催いたします。

会員の皆さんの積極的なご参加をお待ちしています。大会要項は次のとおりです。自由研究発表への申込もお待ちしています。参加の可否については、電子メール、または同封の葉書で 10 月 21 日(日) (必着)までにご返送下さい。

[2016 年度大会開催要項]

日程 11 月 10 日 (土) ～11 日 (日)

会場 山形県郷土館「文翔館」

[プログラム] (予定)

10 日 (土)

13:00～16:00 エクスカーション
(参加費 1,000 円を予定)

16:15～16:55 理事会

18:00～20:00 懇親会 (会費 6,000 円を予定)

11 日(日)

9:00 受付開始

9:20～10:00 会員会

10:15～12:15 研究発表

2018 年度大会研究発表の申し込み

2018 年度大会における自由報告の発表を募集いたします。以下の発表申し込み要領、発表要旨作成要領ならびに発表要領をご覧の上、電子メール、または同封の発表申込ハガキに必要事項を記入し、学会事務局にお送り下さい。

[発表申し込み要領]

- ・発表の申し込みはできるだけ電子メールを使用して下さい。
tabuchi@fukushima-nct.ac.jp
- ・発表申込締切は 10 月 21 日(日)です(必着)。
- ・共同発表の場合は、すべての共同者の名前を書き、発表者には○印をつけて下さい。また、発表者は 4 人以内とします。
- ・取り消しの必要が生じた場合は、直ちに事務局に連絡して下さい。

[発表要旨作成要領]

発表要旨は次の要領で作成してください。

- ① A4 サイズの用紙を使い、ワープロで作成しプリントアウトして下さい。印刷余白は上下左右とも **25mm** とって下さい。
- ② ページ設定を 40 字×40 行にしてください。
- ③ 発表題目は 16 ポイント・ゴシックに指定し、センターに置いて下さい。副題は 12 ポイント・ゴシックにして下さい。
- ④ 名前(所属)は 12 ポイントにし、右に揃えて下さい。
- ⑤ 題目と名前の間、および名前と本文の間に 1 行余白を入れて下さい。
- ⑥ 本文は 12 ポイントにして下さい。
- ⑦ 要旨は、A4 用紙 2 枚に収めて下さい(一人分です。共同の場合は 6 枚以内です)。
- ⑧ 要旨はなるべく電子メールによる添付ファイルで提出してください。郵送の場合は、A4 の用紙を折らないように大きい封筒をお使い下さい。

⑨ 発表申込締切は10月21日(日)です。発表要旨の送付締切日は11月4日(日)です。厳守をお願いします。

⑩ 要旨のフォーマットは学会HPに掲載しますので、そちらもご活用ください。

要旨の送付は電子メールを使用して下さい
(tabuchi@fukushima-nct.ac.jp)。

[発表要領]

- ・ 発表内容は、都市に関する研究報告、調査研究報告、都市施策・まちづくり・地域づくり等の実践報告を主とします。
- ・ 個人発表の場合は発表、質疑応答、交代時間を含めて30分とします。共同発表も同時間とします。
- ・ いずれも時間を厳守して下さい。

発表の際には、発表レジュメあるいは発表資料をできるだけ用意して下さい。

石巻支部会の活動

佐々木万亀夫支部長(石巻専修大学)と斎藤美和子理事(ベガルタ仙台)を中心に活動している石巻支部ですが、2017年度の支部会は第1回が2017年5月16日、第2回が8月22日、第3回が10月13日に開催されました。また、10月には日本都市学会の年次大会が石巻市で開催され、大変盛況のうちに終わることが出来ました。

2017年度会員会を開催

2017年度の会員会を2017年10月29日に開催しました。会員会の議事は次のとおりです。

1. 2016年度事業報告
2. 2016年度決算(案)
3. 2017年度事業報告(案)
4. 2017年度予算(案)
5. その他(会員の状況など)

報告事項では理事会、2016年度大会、石巻支部会の報告、学会通信および研究年報の発行が報告されました。また、2018年度より郵便振替による会費の振込を廃止し、ゆうちょ銀行と七十七銀行の口座振込のみとすることが決定されました。

『研究年報』第19号論文の募集

『研究年報』第19号の論文を募集しています。また、13号から継続している東日本大震災関連の特集論文の募集も同時に行っておりますので、投稿ご希望の方は学会事務局までお問い合わせください。

なお、『研究年報』第17・18合併号は2018年秋発行に向けて編集作業を進めております。

学会誌のコンスタントな発行と内容の充実をととして、東北都市学会の一層の盛り上げを図ろうと考えておりますので、ふるってご応募ください。また、上記に限らず自由投稿論文は随時受け付けています。「論文」、「研究ノート」、「フィールド・ノート」、「都市情報」、「書評」、「文献紹介」、すべてのジャンルで受け付けます。投稿にあたっては、研究年報各号に掲載している[研究年報投稿規程]にしたがって原稿を作成のうえ、下記『研究年報』編集委員会宛にお送りください。なお、従来のような紙媒体による投稿に限らず、Word形式の論文データを添付した電子メールによる投稿も受け付けます。

『研究年報』編集事務局

〒970-8034 いわき市平上荒川字長尾30
福島工業高等専門学校ビジネスコミュニケーション学科
田淵義英研究室気付
E-mail tabuchi@fukushima-nct.ac.jp

会員の状況 2018年9月末現在

一般個人：56 一般学生：9 団体：1
(日本都市学会会員 65)
地域個人：31 地域学生：2

合計会員数 99

2018年度会費納入のお願い

2018年度の会費納入をお願いします(過年度分も含む)。学会の活動は、会費によって支えられています。会員の皆様の迅速な納入をお願いいたします。うっかり滞納をされている会員もおられるかと思います。納入にご協力ください。また、2年続けて会費が支払われない場合、除名することもありますのでご注意ください。

会費は同封の払込取扱票、もしくは銀行振込にてお支払い下さい。会費は次のとおりです。

[会費]

一般個人会員 9,000 円

地域個人会員 5,000 円

一般学生会員 7,000 円

地域学生会員 3,000 円

団体会員

東北都市学会費 10,000 円×口数+日本都市
学会費 4,000 円

[納入方法]

郵便貯金口座 18140-27225001 東北都市学会
銀行口座 七十七銀行 仙台市役所支店
(普) 5253861 東北都市学会 会長 松村茂

事務局から

- ▼ 『都市フォーラム』は会員の皆さまのお手元に届く少し前には、HPでもご覧になれます。
- ▼ 『研究年報』第19号は自由投稿論文に加え、引き続き震災関連の調査研究報告の特集を行います。多くの会員の皆さまからの応募をお待ちしております。
- ▼ 2018年度の東北都市学会山形大会は、2018年11月10日(土)から11日(日)にかけて、山形県郷土館「文翔館」で開催されます。ぜひご参加下さい。

東北都市学会役員 (2016.10～2018.9)

会長 松村 茂:【本部支部会長理事】

理事 北原 啓司(青森)

理事 石沢 真貴(秋田)

理事 佐藤 慎也(山形)

理事 吉野 英岐(岩手):編集担当

理事 増田 聡(宮城):【本部支部選出理事】

理事 初沢 敏生(福島)

理事 岩動 志乃夫:研究活動担当

理事 齊藤 美和子

理事 齋藤 綾美

理事 田渕 義英:【本部常任理事】

理事 仙台市

(担当:まちづくり政策局政策企画部政策調整課)

監事 阿見 孝雄・松本 行真

※研究専門委員

岩動志乃夫(委員長)、加藤渉、齊藤美和子、
佐藤直由、高橋英博、土屋純、初沢敏生、日野正輝、
若月昇、松本行真

都市フォーラム 32号

東北都市学会通信

2018年(平成30年)9月30日発行

編集発行 東北都市学会事務局

〒970-8034 いわき市平上荒川字長尾30

福島工業高等専門学校コミュニケーション情報学科

田渕義英研究室気付

Tel 0246-46-0857(直通)

E-mail tabuchi@fukushima-nct.ac.jp

http://www.senkyo.co.jp/tau/index.html

.....

2018 年度東北都市学会大会
圏域を活かした温故知新のまちづくり

東北都市学会会長 松村 茂

<趣旨文>

災害国日本と称されるように東日本大震災以降も、全国各地で様々な災害が多発し、今年も大阪北部地震に続いて、猛暑とともに西日本の豪雨災害、突風による風力発電施設の倒壊等も発生している。東北地方でも山形県最上地方で発生した豪雨災害では農山村で地滑りが発生し、都市の河川に流木が流れ込んだ。こうした自然災害は、津波や水害、噴火、断層型地震などのハザードマップを基にした立地適正化や冬季の多雪地帯からの季節移動なども含めて、都市と農山村との関係を改めて圏域として捉え直す必要性を生じさせている。

その一方で、中心市街地では、少子高齢化の進展とともに都市施設、公共施設の老朽化、空き地、空き家の増加が続いている。東日本大震災の際にはそのような住宅ストックがみなし仮設住宅として活かされる道が開けたが、今後は住宅のセーフティネットや暮らしの再構築の場として新たなリフォームや耐震補強、リノベーションを施しながら圏域そのものの空間変容を促していく仕組みが望まれる。

今回、大会が開催される山形県は置賜地方、村山地方、最上地方、庄内地方それぞれが圏域を古くから形成している。山形の地は、1950 年代をピークに人口流出が始まっており、1980 年代に一時回復したが、近年は人口の減少率が急激に高まってきている。かつては農山村から圏域内の地方中心都市へ人口の流れがあったものが、現在は、地方中心都市から山形、仙台、東京への高等教育機関への進学や就職による流出など、流出のパターンが変化を見せている。

このような人口の社会的減少と自然的減少との大きな流れに抗する形で、幾つかの試みが芽吹いてきている。庄内地方での地域リノベーションを始めたヤマガタデザインの試みや、村山地方で「子育てするなら」と掲げる東根市の試みなどである。山形市は、古くは文翔館や郷土館、教育資料館など明治大正期の建築の保存に早くから取り組んでおり、中心市街地活性化事業による紅の蔵や第一小学校のリノベーション、水の町屋による山形五堰の修景、育児サークルランドによる子育て支援施設の移設も行ってきた。日本一の芋煮会やドキュメンタリー映画祭、山形ビエンナーレ、日本遺産「山寺・紅花文化」などのソフト的な事業も含め、改めて圏域として捉え直した際に見えてくる山形らしい景色があるものと考えられる。

今大会では、大会テーマを「圏域を活かした温故知新のまちづくり」とした。このテーマに準じた専門家の研究報告ならびにエクスカーションを通して、圏域の形成の再評価と地域を変える試みに焦点を当て、人口減少しながらも進化する東北の新たな未来像を探る契機を提供したい。

【主催】東北都市学会 【共催】日本都市学会
【後援】東北芸術工科大学、他

<開催概要>

開催日時 2018 年 11 月 10 日(土)～11 日(日)

開催場所 山形県郷土館「文翔館」

開催日程 10 日(土)

13:00～16:00

エクスカーション(参加費 1,000 円を予定)

山形駅⇒駅前商店街⇒紅の蔵⇒第一小学校⇒
子育てランドあ〜べ⇒水の町屋⇒文翔館

16:15～16:55

理事会

18:00～20:00

懇親会(会費 6,000 円を予定)

場所:香味庵まるはち
新関芳則氏を迎えて、ドキュメンタリー映画祭・日
本一の芋煮会などのお話を伺いながら

11 日(日)

9:00

受付開始

9:20～10:00

会員会

10:15～12:15

研究発表

- 宿泊場所などは、各自でご手配下さい。
- 懇親会場は「香味庵まるはち」を予定しております。大会会場からは徒歩で 5 分ほどになります。多くの皆さまの参加をお待ちしております。

ホームページ:<http://www.yatarazuke.com/menu.html>

※参加の可否については、電子メール、または同封の発表申し込みハガキで 10 月 21 日(日)(必着)までにご返送下さい。

※発表要旨は事務局・田渕(tabuchi@fukushima-nct.ac.jp)へ 11 月 4 日(日)までに送信してください。

※詳細は決まり次第、東北都市学会ホームページでお知らせし、10 月下旬発送予定の大会案内に記載します。

<会場のご案内>

山形県郷土館「文翔館」

〒990-0047 山形市旅籠町 3 丁目 4 番 51 号

TEL 023-635-5500 FAX 023-635-5501



「文翔館」外観



都市フォーラム

東北都市学会通信(通巻32号)

2018年9月30日発行

<http://www.senkyo.co.jp/tau/index.html>